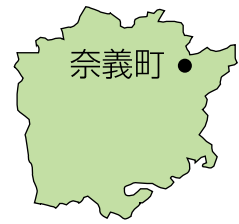


(4) 豚をかう農家

那岐山なぎさんのふもと、奈義町なぎ ちくさんは畜産の町として有名です。黒藪くろやぶさんは豚をかう農家です。



黒藪さんがお父さんから受けついで養豚ようとんをはじめたのは、今から35年前になります。はじめたころは、頭数もあまり多くありませんでしたが、現在では、3,700頭の豚をかっています。

黒藪さんのところでは、毎日平均10頭の割合で子豚が生まれます。生まれたばかりの子豚は病気にかかりやすいので、とても気をつけて育てます。

赤ちゃんの豚は、生まれて10日ほどの間、母豚ちちの乳を飲みます。その後は、母豚とはなし、成長するにつれて、えさも変えていきます。そのため、豚舎とんしゃも成長に合わせて変わります。



えさを食べる黒豚

「うちには、黒い豚もいるよ。」と、黒藪さんに言われ、別の豚舎に案内してもらいました。そこには黒豚と呼ばれる種類の豚がかわれていました。黒豚は昔

から日本でかわれていた種類で、肉質がよく、味がよいと、最近特に人気が出てきている種類です。しかし、ふつうの豚と比べて、市場に出すまでに長い期間がかかり、また神経質しんけいしつなため、飼育には特に気を使います。